

武蔵台緑地の生き物について

武蔵台緑地は古代多摩川による浸食で削り取られた崖線上にあります。府中市にはもう一つの崖線である府中崖線があり、よく似た植物や生き物たちが生育しています。崖線は浸食によって削り取られた段丘で断面は双方異なった土性で、生育する植物も多少の違いが見られます。これらの特徴を残し管理し受けついでいくことが必要なことです。

■ 現状

武蔵台緑地は上部に大きな医療施設を伴った都民の重要な建物が林立し崖線に流れる水脈が大きく変化しているものと思われます。国分寺駅近くは上部に日立の研究所の大きな池が存在し崖線下のあちこちに湧水を見ることが出来ますが、ここでは湧水らしき場所は確認できませんが、水分豊富な場所に自生するニガキやクマシデが生えている一帯やアズマネザサを駆除しシャガ、ウコギなどが繁茂している一帯は水分が染み出している水分豊富な場所であると思われます。サワフタギも沢を覆うことから名が付けられるぐらい水分豊富な所に自生している樹木なのですが現在少し乾燥気味の性が横に広がるような樹形になっていません。崖線上部には赤松が多い部分が見受けられますが、通常の雑木林では赤松は伐開地にいち早く芽を出し生育する樹種ですが陽樹の性が他の樹木との競争に負け所々に生えているのです。ここでは不自然に固まって生えているので、松根油を採るために全体的に植栽されたものと思われますが、徐々に枯れてイヌシデなどを主体とした樹種に変化したものと思われます。

林地を利用していない部分の多くはアズマネザサに覆われています。一部は野鳥の隠れ家としている場所以外は笹刈りによって潜在植生が戻ってきている場所があります。キンラン、ギンラン等の蘭をはじめヤマユリなど里山で見受けられた多くの草花が復活しています。一方ナンテン、ウスギモクセイ、ムサシアブミなど住宅地からの鳥による伝播植物や明らかに山野草愛好家など栽培品を植栽している場所も見受けられます。

温暖化によって植生や生物が多少変化してくることは避けられませんが、鳥や昆虫を含めアオダイショウなどもいる自然豊かなこの崖線を将来に向かってどのように活用し、市民への緑の発信基地の一つとして緑地を維持監理していくかが重要なテーマであると思われます。

■ 対策として

- 1, 放置しておくとならぬ戻ってしまうアズマネザサをどのように管理し監理していくか。
- 2, 外来種をどのように扱うか。
- 3, 日本在来種といえどもこの地域に存在しないものをどうするのか。
- 4, 生育するにつれ過密になる高木の倒木や枯れ枝落下による人的被害の回避。
- 5, 住民、学校一体となって緑を守る必要性の意識を高める活動。